

記念物  
【史跡】

しゅ はか  
ハンナー主の墓

指定年月日／1988（昭和 63）年 1 月 19 日  
所在地／大川 1426・外



ハンナー主の墓は、市街地から北方約 1.5 km、バンナ岳麓にある石城山のすぐ前方に位置している。坂武名屋とよばれる長栄姓一門の 7 代信明（1629～1699）の墓と伝わる。

墓碑によると、この墓が造られたのは 1647 年で、5 代の石垣親雲上宗延が 56 歳の時、数百人の力で数月かけて墓を造営した。この場所に墓を造るよう助言したのは、当時八重山に滞在していた唐栄（久米村人・中国系）の風水師、古波蔵親雲上である。墓碑には墓前に田を開くことは好ましくないとされ、子々孫々に至るまでこの教えを忘れずに守

るよう碑を立てた旨が記されている。なお、現在墓碑は取り外され、八重山博物館に収蔵されている。

17 世紀の琉球では、士族の系図家譜が作られるようになり、祖先を同じくする門中意識や祖先崇拜が強くなった時期だとされ、墓の築造に際しても、風水思想の影響を強く受けるようになったとされる。

八重山においても、当時の風水思想がいち早く導入されたことが、墓碑によって明らかであり、当時の人々の墓に対する考え方をうかがい知るとともに、墓の築造方法などから、当時の建造技術を知ることができる。

市指定

記念物  
【史跡】

いしすくやまざんきゅうぶ  
石城山残丘部

指定年月日／1988（昭和 63）年 2 月 16 日  
所在地／大川 1428-2



石城山は市街地の北方約 1.5 km、バンナ岳の麓にある新生代古第 3 紀始新世石灰岩（官良層）の岩山である。しかし、コンクリート材料として岩山全体が大規模に採石され、現在は岩山の西崖部が残っているのみである。

石垣四ヶ村の発祥に関わる場所と伝えられ、かつては岩山全体に石城山遺跡が形成されていたが、採石のためほとんどが破壊されている。1960（昭和 35）年と 1962（昭和 37）年の小調査では、頂上の窪地から大量の地元産土器片が

出土し、わずかだが中国製陶磁器、石器も見つかっている。

1977（昭和 52）年には、県教育委員会が発掘調査を行った。その結果、石城山遺跡に関連する土器、陶磁器、石器、貝殻類などの出土とともに、それらの遺物包含層より下の洪積世の層から鹿化石を主体とした脊椎動物化石が出土した。動物化石は哺乳類 4 種、爬虫類 4 種、鳥類 9 種、両生類 8 種の計 25 種類で、鹿化石は絶滅種のリュウキュウジカであり、石垣島では白保轟川流域で採集されたものにつき 2 例目の発見となった。

四ヶ村発祥の伝承をもつ石城山も、残丘部を残すのみで、ほとんどが失われてしまったが、石垣島の民俗や地質、考古を学ぶ場所として、これからも守っていかなければならない場所である。